

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- *賛美 392番
- *交読文 11番
- *使徒信条 会衆一同
- *頌栄 1番
- 礼拝のための祈り 川合ゆきえ姉妹
- 賛美 399番
- 聖餐式 賛美281番
- メッセージ 蛇 - 悪魔 - の誘惑の徹底解剖 (創世記 3:1-5)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 401番
- 献金感謝の祈り パスター
- 報告と歓迎
- *主の祈り 会衆一同
- *祝祷 パスター

祈禱課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼は____から逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神は____に近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。(ヤコ 4:7-8) _____を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、____のためにとりなして下さるのです。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、____を引き離すことはできません。(ローマ 8:31-39)

「主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。」(創 3:1) この蛇こそ、天から投げ落とされた、全人類を惑わす者、すなわち悪魔とかサタンとか呼ばれる、あの古い蛇(黙 12:9)である。悪魔の「魔」、その漢字は、广(まだれ:家や庭を意味)の中に、二本の木があり、その間に「鬼」と書くように、悪魔の誘惑の特徴は、いかに人をいのちの木から遠ざけ、善悪の木に向かわせるか、という点にあり、御言葉の肝心な所を抜いたり、不純物を混ぜたりして、人に不安の波紋を起こさせ、御言葉否定へと導く。神が言われたのは、①「園のどの木からも」②「思いのまま食べてよい」、③「しかし善悪の知識の木からは」④「取って食べてはならない」だった。(創世記 2:16-17) しかし悪魔であるこの古い蛇は、『①「園にあるどの木からも」④「取って食べてはならない」と、ほんとうに神が言われたのですか』(創 3:1)、と語り、肝心の、②と③を除いてしまっている。蛇は、神様から与えられているあらゆる良き祝福には、全く言及せず、たった一つのしてはならない事にクローズアップさせ、あたかも神は、我々に制限を大きく課しているかのような錯覚を、吹き込ませた。御言葉をしっかり覚えていないと、容易に騙されてしまう。エバはその掻き乱しに、まんまと乗ってしまった。皆さんも、エバのように、神様は我々を大きく制限し、良き物を出し惜しみしていると思っていないだろうか。

エバは「園にある木の実を食べてよいのです」と答えたが、「どの木からでも」「思いのまま」を省いている。神様からのあらゆる豊かな恵みが縮小されてしまっており、さらに「園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてはいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」と続けた。エバが「いけない」を3つも言った所に、神様は「いけない」を良く言うお方だという否定的認識を垣間見る。皆さんも、エバのように、神様は「いけない」を良く言うお方だという思いに、曇らされていないだろうか。もしそうなら、蛇は、皆さんの誘惑に成功し、神様からの、あらゆる豊かな恵みが、まんまと曇らされている。神は「触れてはいけない」とは言っていなかった。エバとしては、神様をかばうつもりで、拡大解釈して言ったのだから、神様は、人間の力や思いつきによって弁護されるようなお方ではない。神様はむしろ、人間が御言葉にしっかりと留まり、多くの実を結ぶ事によってこそ、栄光をお受けになるのだ。(ヨハネ 15:7-8) 御言葉に人間的な解釈をつけ足しする事は、パリサイ派や律法学者の道であり、それは、ますます人を束縛し、人を御言葉の真理から遠ざかせ、サタンを喜ばせる事である。

神様は「それ(善悪を知る知識の実)を取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ」と言われたのに、エバの中では「死んではいけないから」と変換されており、「必ず死ぬ」という確信が揺らいでいるのも分かる。私達がサタンに、心かき乱されるような事を言われた時、答えに急いで、口からでまかせを言ったり、御言葉に根拠の無い、自分なりの解釈を、ぼろっと言ってはならない。サタンは、御言葉に根拠の無い解釈や、人間的な力・知恵など、これっぽちも怖くはない。むしろ、御言葉に付け足したり、差し引いたりする事は、サタンの大好物で、さらに付け上がって来る。エバの中に御言葉への確信がなく、付け足したり差し引いたりしたのを見たサタンは、今度は、御言葉の完全否定を吹きかけて来た。「蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、且が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」(3:4-5) サタンの本質的な性質は、神を引きずり降ろし、自分が神のように高くなる事である(イザヤ 14:12-15)。それに対し、救いの道はその全く逆で、自分を降ろし、主を高くする事である。

私達が主とするべきお方は、唯一キリストのみ、土台とすべきは、自分の考えではなく、御言葉のみである。主はサタンに試みられた時、御言葉によってを撥ね付けたように、私たちも、御言葉をそのまま、信仰を混ざって宣言するなら、サタンはやがて去っていくのだ。「キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと霊の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。」(コロサイ 3:16) 御言葉をたっぷりと蓄え、サタンの策略を知って見極め、その手には乗らず、御言葉によって勝利し、信仰者として堂々と歩み、サタンからはむしろ分捕っていく皆さんでありますように！

